

トバモウイルス抵抗性を持つ 甘長トウガラシ品種の育成

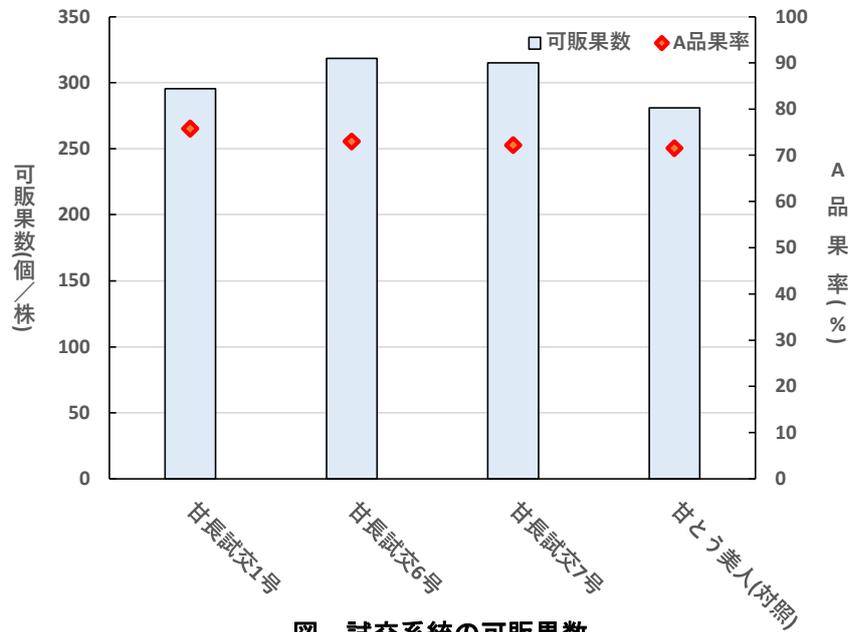


図 試交系統の可販果数

収穫期間：令和5年10月6日～令和6年2月27日

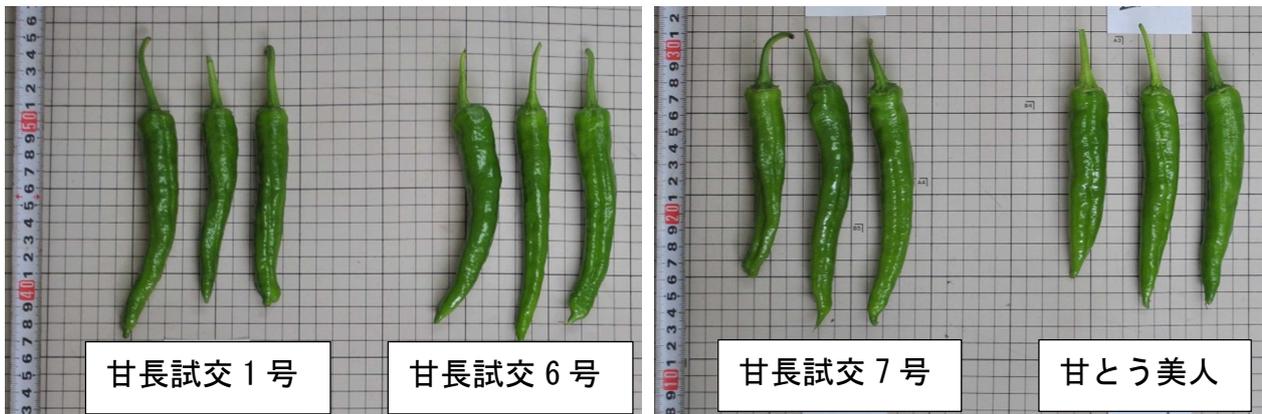


写真 試交系統の果実

本県では「土佐甘とう」の名前で親しまれ、平野部、中山間部で広く栽培されている甘長トウガラシ(慣行品種‘甘とう美人’)は、一部の産地でトバモウイルスによるウイルス病が問題となっています。

トバモウイルスに感染すると葉、果実へのモザイク症状、生育抑制などの被害を引き起こすため、ピーマン、シシトウでは抵抗性品種が開発されていますが、甘長トウガラシには抗性品種がありません。

そこで、当センターではP_{1,2}型トバモウイルスに抵抗性を持ち、慣行品種と同程度の収量および果実品質を持つ甘長トウガラシ品種の育成に取り組んでいます。

令和5年度の促成栽培試験では、収量、A品率とも‘甘とう美人’と同等以上を示す3系統を選抜しました(図、写真)。

令和6年度はこれら3系統の現地実証試験を実施する予定です。

(園芸育種担当 尾崎 耕 088-863-4916)